

安心な暮らしへの試み

「光回線」の有効活用！

— 高齢者の「健康相談」と

「見守り」を遠隔操作で—

「光施設」を整備した積丹町・喜茂別町・ニセコ町・島牧村が共同で、IT技術を活用した高齢者の健康や安心な暮らしを目指す、全道で初めての実験事業に挑戦します。

住民の高齢化など、地域の社会的な課題の克服に地域住民が自ら主体的に参画し、協働のまちづくりを目指す2年間の実証試験的な取り組みに、国が総額約4、250万円の全額を財政支援するものです。

遠隔健康相談・管理事業 — 美国宝寿会が参画 —

万歩計を貸し出し、定期的に総合文化センターに備え付けた端末装置から、万歩計のデータ（最大2週間分）や自分で測定した血圧、体重などの情報を送信し、蓄積されたデータをもとに東京のサポートセンターの医師などから、互いの顔の表情や測定データを見ながら健康相談を受けることができます。

また、蓄積されたデータは、グラフ化されるため、週間や月間ごとの健康状況が把握しやすくなり、より効果的な健康アド



文化センターに設置された端末装置と測定機器

バイスを受けることができます。ようになります。

11月8日に行われた同モデル事業の説明会では、美国宝寿会の会員19人が参加し、端末装置や測定機器の取り扱いなどの説

明を受けました。次回からは自分たちで操作することもあって、皆さんが真剣に取り組む姿が見られました。



端末装置を操作する美国宝寿会のみなさん

小寺猛会長は、「高齢になると、多かれ少なかれ皆持病を持っています。事業に参加し、歩くことでいくらかでも持病が改善され、健康が保たれれば。」と、また、「親子で参加される熊本和子さんは、毎日、1万歩を目標に歩いています。今後、テレビ電話を使って、医師から健康アドバイスや食事の取り方などについても聞いてみたいですね。」と話していました。

参加する皆さんが定期的に集まり、交流することで健康不安

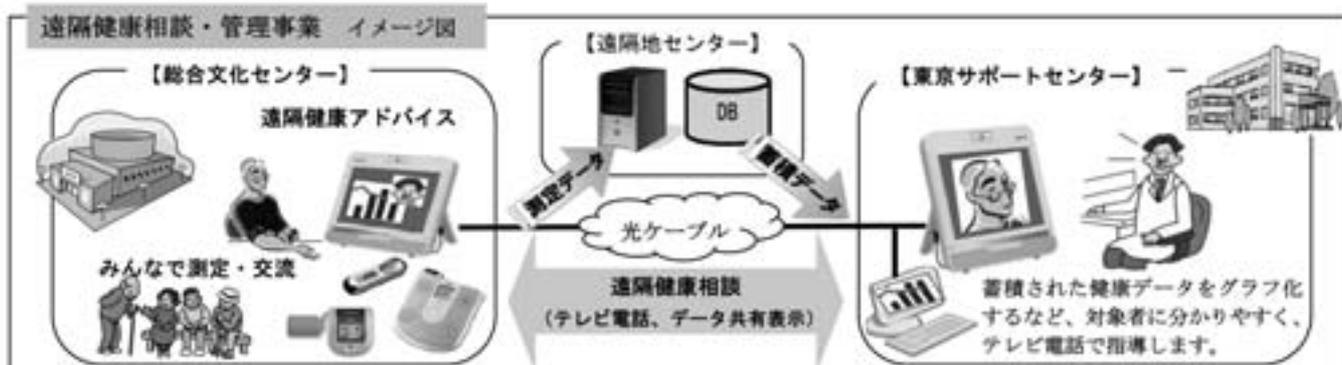


熊本キミエさん（左）と熊本和子さん（右）

やストレスの解消が図られ、また、自ら測定をすることで自発的な健康づくりの醸成と習慣付けが期待されています。

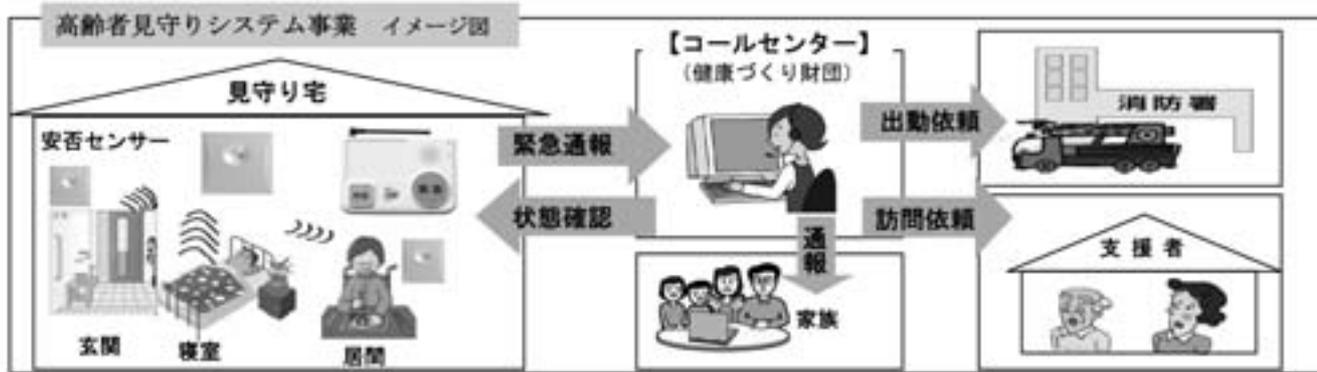
一人暮らし見守りシステム事業

町内で一人暮らしをされている高齢者宅の居間・寝室・玄関の3カ所に安否センサーを設置し、高齢者の起床や就寝など、24時間の動きを感知し、一定時間センサーに感知がないなど、異常と判断した場合は、コールセンター（財北海道健康づくり財団）へ自動で通報が行われるシステムです。従来の緊急通報装置が設置されている高齢者宅など15世帯に試行的に設置され





ます。
従来の緊急通報システムとは違い、高齢者が自ら通報することができない場合には、自動的にコールセンターに通報され、また、直接同センターと通話することもできます。
美国町で一人暮らしをされている小林サイさん（86歳・写真）は、「近所や家族に協力をいただくこともありますが、元気で動けるうちは自宅で過ごしたい。このセンサーが設置され、心強く思います。」と話していました。札幌など、離れて暮らす家族の安心にも役立つことが期待されます。



建設中の「野塚会館」の構造見学会

積丹産カラマツ集成材で初の公共施設を！

加工技術の進歩が著しい積丹産のカラマツや道内産の木材をふんだんに使い、「木の良さ」と「地材地消」のPRも兼ねて、現在建設中の「野塚ふれあい交流館(仮称)」の構造見学会が、地域住民のほか町内外の森林林業業者や建設業者など90人が参加し、去る11月17日、現地で開催されました。



梁（写真上）や柱（写真中）など、主要な構造部に使われている積丹産カラマツ集成材（写真下）。
梁は幅80cm×厚さ15cm×長さ900cmが8本使用されています。

町では、間伐など伐採期を迎えている町有林資源の有効活用を目指すモデルの公共施設として町有林（JＴの森）から産出した「カラマツ材」や道産木材

を使用した「野塚地区ふれあい交流館」の建設を進めており、建物の骨組みとなる「構造部」が出来上がったことから、積丹町では初めての見学会を開催しました。

岬の湯しゃこたんの団体休憩室で、後志総合振興局職員などから木造建築物を持つ特性や優位性などについて説明を受け、その後、野塚町内の建設工事現場に移動し、1㎡当りで比較すると一般住宅の2倍以上の木材量が使用され、組み上がった建物内部の構造を見学しました。町では、国有林事業と町の分収造林事業との連携や、JＴ（日

本たばこ産業㈱）の支援による町有林事業などの取り組みを進めており、この施設は、こうした地域材の利用や森づくりの取り組みの普及啓発を図る拠点としての活用も期待されています。
同館は、12月26日までの工期で、道の検査などを経て年明け1月下旬頃の供用開始を目指しています。総事業費は、約7、700万円で、既存の野塚克雪センターと渡廊下で結び、一体的な利用を図るため、明年度に向けて現在、同センターの耐震調査と改修設計が行われています。